山陽新聞

2007年(平成19年)7月14日 土曜日 地方経済 12

きらり★No.1 ⑭

三陽機器

（岡山県里庄町）

フロントローダー

500種類 用途別に開発

農業用トラクターの前部に取り付ける油圧式の積み込み装置「フロントローダー」。砂や資材、牧草、稲わらなどの運搬をはじめ、整地や除雪など、トラクターをアルドーザーやショベルカーのように使える。

国内シェアの約70%を握る三陽機器（OEM（相手先ブランドによる生産）により、ヤンマー農機（大阪市）やクボタ（同）といった総合農機メーカー10社の純正ローダーをすべて供給。メーカーや用途別にそろえたローダーは約五百種類にも上る。

寺前公平社長（五一）は「まだローダーが認知されていない時代から農家とのコミュニケーションを図って市場開拓してきた。長年蓄積して来た労力、ノウハウ、顧客からの信用が当社の財産」と胸を張る。

一九六六（昭和四十一）年、兵庫県内の農機具会社を辞めた技術者九人が同県尼崎市で設立。欧州で当時普及していたローダーに目を付け、その年に国内で初めて売り出した。五年後には着脱可能なローダーを発売し、農業の機械化の進展などを追い風に急成長。八八年、創業者が井笠地方と縁があったことから現在地へ移転した。

メンテナンスなど手掛ける三陽サービス（岡山県里庄町）を通じて集めた農家や農機具販売マンの声を商品開発に反映し、自動で着脱できるローダー、世界初の電子制御タイプなど次々と開発。多品種少量生産に対応するため、部品製造や加工はすべて外部委託し、自社では品質の最終チェックを兼ねた組み立てと塗装に特化している。

トラクターの前部に取り付けられたフロントローダー。国内シェアの約70%を占める

三陽機器の本社工場。部品製造は外部委託し、組み立てや塗装を行っている

三陽機器＝1986年設立。農業機械、環境関連機械などを製造販売する。生産拠点は本社と兵庫県宝塚市の2カ所。資本金3600万円、売上高37億3000万円（2007年5月期）。従業員数92人（パート含む）。

しかし、七〇年代に年間二十万台を超えていたトラクター販売は、農家数減少などで現在は六万台弱まで低迷している。市場の先細りを見越し、九四年には瑞穂（瑞穂市）を皮切りに農業機械に参入、ゴルフ場や農業用ハウスなどを手掛けるなど新分野を開拓している。

寺前氏は「顧客の目線に立った製品開発が当社の生命線。営業やサービス面でも奇抜に徹底した先を行きたい」と力を込める。

（三宅良一）

＝土曜日に掲載